学　校　だ　よ　り

6月号（第03－03号）

令　和3年６月25日

横浜市立高田中学校
校長　横田　由美子
TEL：５９１－４１８３

「明るく楽しく前向きに」、

そして「一人ひとりが」「自分から！」

コロナ禍での生活が１年を超えました。先日の全校生徒朝会では、長引くコロナ禍でも毎日元気に登校してきてくれる高田中の生徒たちに次のようなお話をしました。

100％思い通りにならなくても、きちんと状況を受け止め、その中でめいっぱい、明るく楽しく前向きに一生懸命取り組めるのは高田中の皆のとっても素晴らしいところだと思います。「笑う門には福来たる」という「いつも明るく笑っていれば幸せがやってくる」 という意味のことわざがあります。「楽しいとき」「うれしいとき」「おもしろいとき」、人は笑います。でも、いつでも「楽しい」わけではありませんね。「悲しいとき」「苦しいとき」だってあります。100％ハッピーでないときもある。でも、そんな時でも、笑顔でいると「悲しみ」や「苦しみ」は和らいでいきますし周りの人も幸せな気持ちになります。逆に周りの人の笑顔で、元気も出てきます。「自分から笑う」ことで心の中が「楽しい」方のギアに傾くのだと思います。勉強や部活や行事も同じですね。「おもしろそう」「楽しそう」と自分から取り組んでいくとぐんぐん楽しくなって笑顔になります。それを見た周りもやる気が出て、そして、教室中、学校中が笑顔で楽しくなるのだと思います。今ある状況を理解し受け止め、その中でめいっぱい、明るく楽しく前向きに。キーワードは、「一人ひとりが」「自分から！」。

【3校合同学校運営協議会の開催】６月21日（月）

６月２１日（月）に今年度最初の、学校運営協議会が、高田中学校を主会場としてZOOMを通じて開催されました。学校運営協議会とは、学校と保護者や地域の皆さんが、地域の子どもを育てるという視点で知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。有識者の生重様からは、高田中ブロックで参考になるようにと地域と学校との連携の事例を数多くいただきました。地域の皆様と総勢15名でのZOOM会議でした。2度目のZOOM開催でしたが、画面越しでも活発な意見交換を行うことができました。

【1年生：雨中の自然教室】6月4日（金）

6月4日(金)にさがみ湖リゾートプレジャーフォレストへ自然教室に行ってきました。当日はあいにくの雨でしたが、雨天プログラムに変更になったものも含めて一日の活動をしっかりと行うことができました。

今回の自然教室のスローガンは『臨機応変～どんなことがあっても冷静に対処し、積極的に行動する』です。

雨であっても、プログラムが変更になっても、活動時間が変わっても、昼食の座り方が変わっても、臨機応変に対応した一年生の柔軟性と、一つひとつのことを大切にして自然教室に取り組んでいた姿勢を見ることができました。

特にオリエンテーリングは、雨が強くなった中、一つでも多くのスタンプをとろうとがんばる姿、班員を気遣いながらまわり方を考える姿、次のポイントを話し合いながら決める姿、などなど今回の目的の「協力」を実践していくことができました。

雨天プログラムの組みひもづくりでは、自作のよいお土産になったと思います。

最初に立てた計画とは違う形になりましたが、行事の目的の柱を変えず実施した自然教室。多くの人が「楽しかった」と笑顔を見せてくれたことにホッとするとともに、この行事で得たことがこの学年の和を作る貴重な体験として刻まれていくように願っています。（学年主任　山田）

【地域防災訓練】6月11日（金）

例年20名以上の地域の消防団他の皆様が来校して実施くださる地域防災訓練。昨年度は休校のため残念ながら中止でした。今年は、それぞれのパート毎に地域の皆様と事前に学校でビデオ撮りした動画を教室で視聴して体験もするという形で当日の来校者は消火器体験支援の4名のみで実施ができました。シニアの地域サポーターも多い中、安全安心にとの教員からの提案に即答でご快諾、ビデオ撮り対応くださった地域の皆様に感謝です。

（実施内容）　＊毛布で作った担架による負傷者運搬
＊プラスチック段ボールでのパーティションづくり
＊レジ袋など身近なものを利用した応急処置訓練
＊消火器（水）による消火（放水）訓練（*体験）
＊防災や横浜市の防災に関する考え方など講話

【放課後学習会】　6月15日（火）16日（水）

夏試験前の2日間、学校・地域コーディネーターさんによる放課後学習会を実施していただきました。初日は23名、二日目は37名と図書館は大賑わい。「開放する期間を長くしてほしい。」「次の試験ではもっと活用したいので1週間くらい行ってほしいです。」など嬉しいコメントをもらいました。さて、成果は出たかな？

◆熱中症事故等の防止について

ガイドラインでは教育活動においては「基本的には常時マスクを着用することが望ましい」と記載されていますが、あわせて教育委員会から「気候の状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合、マスクを外す」、「その際は換気や児童生徒等の間に十分な距離を保つ、近距離での会話を控える」等の指導をするよう通知が出ています。その中で熱中症も命にかかわる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させるよう記載されています。登下校についても、**人と十分な距離を確保できる場合には**マスクを外してもかまいません。新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっています。**マスクを外したら絶対に話をしない＝「外したら話さない」**をご家庭でも再度ご確認ください。

◆自殺予防に係る文部科学大臣のメッセージについて

令和２年の児童生徒の自殺者数は 499 人で、前年の 399 人と比較して大きく増加しており、また、これまでの自殺者数の推移によると、学校の長期休業明けにおいて自殺者数は増加傾向にあります。こうした状況に鑑みて、児童生徒や学生等に向けた自殺予防に係る文部科学大臣のメッセージが出されました。「保護者や学校関係者等のみなさまへ」もあわせて出されていますのでお知らせいたします。

文部科学省

保護者や学校関係者等のみなさまへ

コロナ禍において児童生徒等の自殺者数が大きく増加していること、また、長期休業明けに児童生徒等の自殺者数が増加する傾向にあり、不安や悩みを抱える子どもたちが増えることも考えられます。保護者や学校関係者、地域のみなさまにおかれましては、子どもたちと向き合い、話しを聞く・話し合いをする時間を積極的に取っていただくようお願いいたします。

「誰も自殺に追い込まれることのない社会」を実現するためには、国民一人ひとりが身近な人の様子を気遣い、支えていくことが不可欠です。文部科学省としても、児童生徒等の命を守り通せるよう、引き続き、自殺予防の取組に全力を尽くします。

令和三年五月
文部科学大臣　萩生田 光一

文部科学省

児童生徒や学生等のみなさんへ

現在、新型コロナウイルス感染症が広がる中で、皆さんの中には不安を抱えている人がいるかもしれません。新学期の始まり、春休みやゴールデンウィークの終わりなど、不安や悩みを抱えていても、決して一人ではありません。ご家族、先生、周りの友達、誰にでもいいから悩みを話してほしい。私をはじめ、周りの大人は皆さんの味方です。

文部科学省では、24時間子供SOSダイヤルから電話相談を受け付けており、各地域にも電話やSNSなどで相談できる窓口、また、各大学等にも相談窓口があります。周囲に相談しづらいときは、ぜひ利用してみてください。

「君は君のままでいい」
（相談窓口PR動画）

https://youtu.be/CiZTk8vB26I

子供のSOSダイヤル等の相談窓口

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm

令和三年五月
文部科学大臣　萩生田 光一